

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年4月1日現在

機関番号：10102

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2012

課題番号：20530793

研究課題名（和文） 教員志望学生による「開かれた学校」推進教員へのデザイン支援プロジェクトの研究

研究課題名（英文） Development of a teachers support project for "Opening a school"

研究代表者

南部 正人（NANBU MASATO）

北海道教育大学・教育学部・教授

研究者番号：00218075

研究成果の概要（和文）：

本研究では、美術科教員志望学生が専門の造形的デザイン能力を生かして「開かれた学校」推進教員を支援した。この支援の中で地域の美術館・教員の研究グループと連携し、地域活動に参加するプログラムを開発・運営し、活動全体を反省的に考察した。結果として、継続可能なプログラム実施体制、研究組織、運営方法を取り込みながら、「旭川地域連携アートプロジェクト」実施した。その中で、教員志望学生が地域の成員性を高めながら、教員としての基礎的な能力を獲得するプロセスを示した。

研究成果の概要（英文）：

In this study, students in art teaching course, supported the teachers on schools open to the community. This support, is to work with the research group of the museum and teachers in the region, and to develop and operate programs to participate in community activities, we considered the Reflective activities as a whole. As a consequence, was adopted continued possible program implementation system, research organization, the management methods. The proposed cooperation organization "Asahikawa Art Project", was conducted. In this project, I showed the process of students in art teaching course while increasing the members of the community, the ability to acquire basic as teachers.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合 計
2008年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2009年度	700,000	210,000	910,000
2010年度	700,000	210,000	910,000
2011年度	500,000	150,000	650,000
2012年度	500,000	150,000	650,000
総 計	3,500,000	1,050,000	4,550,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教科教育学

キーワード：美術科教育、教師教育、美術教育、開かれた学校

1. 研究開始当初の背景

教員養成大学においては、実践的教育力を獲得した学生を育てることが期待されている。この視点は、その後に学士課程の構築と、その質的保証を社会に対して明確に示すことが責務となっている。こうした社会的責任に美術教育・造形教育の視点から、実践的に成果を挙げる必要がある。

2. 研究の目的

本研究では、教員志望学生が専門のデザイン能力を生かして「開かれた学校」推進教員を支援し、この支援を通して「開かれた学校」理論を実践的に検討する。同時に、教員養成カリキュラムと小中学校教育の目標である「確かな学力」との関連を地域連携を通して検討する。教員志望学生が地域構成員としての成員性を獲得することを目的とした。

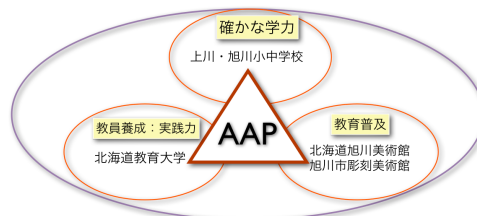
3. 研究の方法

道北地域の美術館・教員の研究グループと連携し、地域活動に参加するプログラムを開発・運営し、活動全体を反省的に考察した。この小中学校の児童生徒を対象とした造形活動（ワークショップ、鑑賞活動）プログラム実施することで、「開かれた学校」実現を支援し行動観察、インタビューを通して、教員志望学生が、地域と学校教育との連携の意義を理解し、その可能性と限界について実務的に経験したことを確認した。

4. 研究成果

(1) 地域貢献ガイドラインに沿って、北海道旭川美術館・上川旭川美術部連絡協議会と連携し、旭川市内近郊中学校美術部に鑑賞プログラムを実施した。このプログラム実施を

して、中学校教員並びに、その研究グループと連携した運営組織の形態（地域連携旭川アートプロジェクト：AAP）、業務分担、運営方法、生徒の学習、教員志望学生の教育実践力の向上、それらの評価体制について検討した。



地域連携旭川アートプロジェクト(AAP)の概念図

(2) 枝幸教育委員会と連携し、児童生徒に対して造形ワークショッププログラムを実施した。このプログラム実施を通して、中学校教員並びに、その研究グループと連携した運営組織の形態、業務分担、運営方法、生徒の学習、教員志望学生の教育実践力の向上、それらの評価体制について検討した。

	対象校数	児童生徒数	参加学生数
2009(H21)	9	200	12
2010(H22)	9	200	13
2011(H23)	9	150	6
2012(H24)	9	150	7

(3) 旭川市彫刻美術館・北海道立旭川美術館と連携し、中学生に対する造形ワークショッププログラムを実施する。このプログラム実施を通して、美術館学芸員と連携した運営組織の形態、業務分担、運営方法、生徒の学習、教員志望学生の教育実践力の向上、それらの評価体制について検討した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 1 件)

南部正人、開かれた学校を手がかりとした地域貢献ガイドラインの検討、北海道教育大学紀要 教育科学編、査読無、61 巻 2 号、2011、pp1～8

〔図書〕(計 1 件)

南部正人、協同出版、地域連携と学生の学び、2013、pp93-111

〔その他〕(計 2 件)

(1)南部正人、芸術教育からみた確かな学力、北海道教育大学シンポジウム報告書 学校・家庭・地域の連携を通して考える確かな学力、査読無、2013、pp22～28

(2)南部正人、教員志望学生による開かれた学校推進教員に対する支援、教育大学の機能を生かした学校・地域・家庭の教育力を高める総合的な研究事業報告書、査読無、2009、pp246～251

6. 研究組織

(1)研究代表者

南部 正人 (NANBU MASATO)
北海道教育大学・教育学部・教授
研究者番号：00218075

(2)研究分担者

なし

(3)連携研究者

なし